

導入の準備
インボイス制度

事業者登録

システム整備

適格請求書

控除可・不可



例えば売上が1,000万円(消費税額100万円)で仕入が400万円(消費税額40万円)だった場合、従来であれば100万円△40万円=60万円を国に納める必要がありました。ですがこれからはこの差し引いていた40万円は課税事業者から購入したものに限定されてしまいます。経過措置として、2023年10月から2026年9月までは80%の税額控除(消費税額40万円×80%=32万円)、2026年10月から2029年9月までは50%の税額控除(消費税額40万円×50%=20万円)と段階的に控除額を減らしていく予定となっています。

2029年10月からは免税事業者からの控除が完全に不可となってしまいますので、60万円でよかった納付額が100万円となってしまいます。段階的ではあるものの免税事業者との取引は大きな影響がありますので、取引先が適格請求書発行事業者となるかどうかの確認が必要となるでしょう。

何から手を付けたらよいかさっぱりわからない! そういう時こそセブンセンスへGOです!

いよいよ1年後の2023年10月から適格請求書等保存方式(インボイス制度)が始まります。「ペンネームで活動している漫画家の本名を開示しなければならない!」など反対活動もされていますが、諸外国で行われているインボイス制度の導入は日本でもいずれ開始されることになるでしょう。直前で慌てないためにも、早めに準備をしていきましょう!

①適格請求書発行事業者の登録

インボイス制度が開始される予定の2023年10月から適格請求書発行事業者となる為には、2023年3月31日までに所轄の税務署長へ登録申請書を提出する必要があります。

免税事業者が適格請求書発行事業者となる場合、「課税事業者選択届出書」の提出は必要ありませんが、簡易課税を選択する場合は、2023年10月1日の属する事業年度の末日までに「消費税簡易課税制度選択届出書」を提出する必要があります。

②システムの整備または導入

従来の請求書に記載している情報に加えて、登録番号・適用税率・税率ごとに区分した消費税額等を記載しなければいけません。その為、今使用している請求書や領収書の発行システムが適格請求書の発行に対応できるかどうかの確認をする必要があります。対応できない場合は、新しいシステムの導入を行い、適格請求書を2023年10月から発行できるように準備しなければいけません。

③取引先への確認

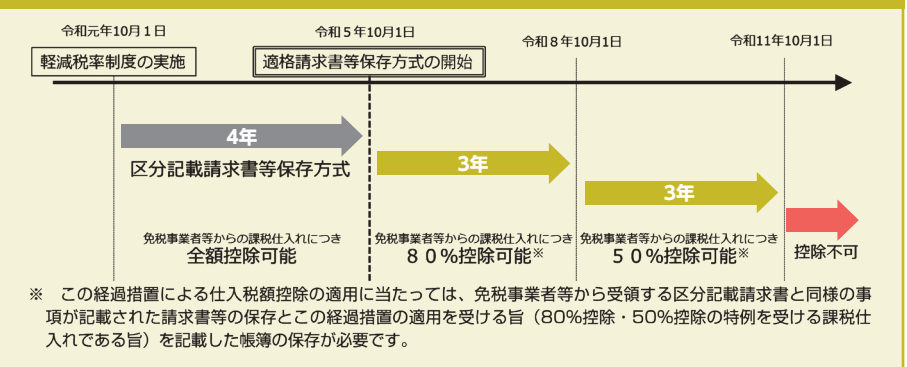
自社の準備と共に、取引先へも確認を行いましょう。毎月取引している外注先や仕入先などが免税事業者の可能性は大きいにあります。これまで取引先が免税事業者であるかどうかを意識したことはなかったと思いますが、2023年10月以降は取引先が免税事業者であることが自社にも影響します。

例えば売上が1,000万円(消費税額100万円)で仕入が400万円(消費税額40万円)だった場合、従来であれば100万円△40万円=60万円を国に納める必要がありました。ですがこれからはこの差し引いていた40万円は課税事業者から購入したものに限定されてしまいます。経過措置として、2023年10月から2026年9月までは80%の税額控除(消費税額40万円×80%=32万円)、2026年10月から2029年9月までは50%の税額控除(消費税額40万円×50%=20万円)と段階的に控除額を減らしていく予定となっています。

適格請求書の記載事項

- ①適格請求書発行事業者の氏名又は名称及び登録番号
- ②取引年月日
- ③取引内容(軽減税率の対象品目である旨)
- ④税率ごとに区分して合計した対価の額(税抜き又は税込み)及び適用税率
- ⑤税率ごとに区分した消費税額等
- ⑥書類の交付を受ける事業者の氏名又は名称

インボイス制度 導入スケジュール



文●セブンセンス税理士法人 マネージャー 金田 怜美

セブンセンスの10年後は

若者円卓会議が創ります!

【夢・若さ・ユーモア】を基本方針として、若手社員を中心に「やりたい!やってみよう!」というチャレンジ精神を1つずつ形にしていこうと発足されたプロジェクトチーム。それが若者円卓会議。拠点・部署を超えたコミュニケーション活性化を目指し、グループ全体の交流を促すイベントの運営を行う「グループ間交流チーム」多様な社員が活躍するセブンセンスグループをSNSを通して紹介していく「SNS・広報チーム」日常業務の改善提案を社員から募集し、グループ全体へ発表する「SeventhSense"KAIZEN"Contest」の企画運営を行う「KAIZENチーム」と、若手メンバーの目線から「今、セブンセンスグループでやってみようこと・やるべきこと」を考え、誕生した3つのチームで絶賛活動中です!



脱セダン・脱クラウン？ トヨタ・新型クラウンの話

2022年7月、トヨタ自動車から新型の「クラウン」が発表されました。高級かつ王道のセダンの代表、ややもすると「オジサン車」とも見られていたクラウンですが、今回はセダンも含めた4車種を一挙に登場させ、驚きを与えました。

クラウンは、1955年に初の純国産設計車として登場。トヨタにはカローラをはじめとしたブランドが次々登場しましたが、最上位のモデルとして位置付けられてきました。1983年の「いつかはクラウン」という有名なキャッチコピーは、「憧れ」のブランドとしてのステータスを表しています。

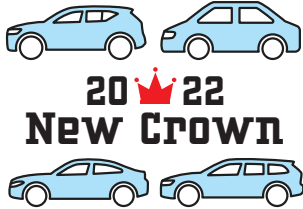
変化があったのは1989年。トヨタはメルセデスやBMWのような統一された高級車に対抗すべく、北米市場向けに「LEXUS (レクサス)」を立ち上げました。その車はのちに日本国内でも「セルシオ」や「アリスト」として販売され、LEXUS自体も2005年に日本に上陸。トヨタは国内最上位のクラウンに、自ら高級車のライバル作り上げてしまいました。

しかし、長年の歴史は伊達ではなく、昔からのクラウンユーザーの熱意で一定の市場を確保してきました。新型が発表されると、実車を見ずに契約していくユーザーもいるそうです。

ですが、昨今のSUVブームとセダン離れや購入者層の高齢化による販売数の縮小もあり、今回打開策に打って出たのです。もともとクラウンは、デザインや機能など時代に即して自由に変化してきた歴史もあります。

セダンの枠を取っ払い、デザインも一新、SUVも含めた4車種に分化したのも、時代に即した変化、とも言えるかもしれせん。

そしてアメリカを含めた海外販売も行われます。果たして世界のユーザーの「憧れ」になってゆけるのか、注目したいところです。



2022 New Crown

数字パズル

28 数独

A~Dに入る数字を足すといくつになるでしょう？

解答は、次月号に掲載します。

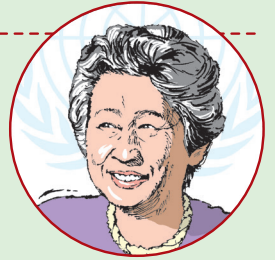
7	A	B					1
8		5	4		1	3	
	6			2			5
	7			4			9
					8	7	
	5			6			3
	1			8			7
		6	7		3	1	9
4						C	D

解答欄 + + + = 合計

8月号の答え + + + = 合計 32

先達に学ぶ。

「現場にとっての最善を尽くす」



緒方 貞子
(元国連難民高等弁務官)

世界の難民保護と救済に大きく貢献し、「小さな巨人」といわれた緒方貞子。日本人として、女性として、初めて国連難民高等弁務官に就任したことで、その名は広く知られている。

緒方は1927年、東京都麻布区(現・港区)にて生まれた。名付け親は曾祖父の犬養毅。外交官だった父の赴任に伴い、幼少期は海外を転々としていた。1948年には聖心女子大学に入ると、学生会の自治会長を務めた。23歳のときに初めて留学し、結婚、出産とライフステージが変わる中でも、勉学に励んだ。37歳のときはカルフォルニア大学パーカー校で政治学博士号を取得している。

その後は、日本政府代表団の一員として国連総会に出席。1976年には、国連公使に就任し、ユニセフ執行理事会議長や上智大学外国語学部長など、責任ある仕事を次々と任されていた。

1991年、63歳で国連難民高等弁務官に就任。その直後にイラクでの内紛の現地視察を行った。そこでは、トルコへの入国を阻まれた40万人のクルド人が立ち往生していた。本来であれば、国外に出なければ難民とは認められず、助けることはできない。危機的状況の中、難民の生命を守るという基本原則にのっとり、前例のない国内避難民の保護を決断した。その後、1997年には難民の将来まで見据えたサポートを行い、2003年には国際協力機構の理事長にも就任している。

数々の役職に就いてきた緒方。その経歴は輝かしい。しかし本当に評価されるべきは、責任ある立場に立ったことではなく、地位におごらず現場のために示した、責任ある決断だろう。

今月のBook Review 一冊

それでも税務署が怖ければ賢い戦い方を学びなさい 調査官も知らない税務調査の急所

- 著者: 松嶋 洋
- 出版社: 金融ブックス
- 価格: 1,650円(税込)
- 発売中

“ブラックリスト入り”の元国税調査官が語る。「軽減税率導入後の税務調査はどうなる?」「領収書がなくても経費になる?」「税務署に提出する資料は少ないほうがいい?」業界紙「納税通信」にて連載7年の人気コラムから珠玉の知識と実践テクニックを厳選して書籍化。国税の裏側を知れば、とるべき対応が見えてくる。

kinyubooks.co.jp



今月、この日に何があった?



1923年9月1日
フランク・ロイド・ライト設計の
帝国ホテル新館(ライト館)の落成記念披露宴

1889年(明治19年)、東京の首都としての都市計画「官庁集中計画」の中で、外国人を招けるような大型のホテルが計画。1890年11月、かの渋沢栄一らの手により帝国ホテルが落成した。1916年、アメリカ人建築家フランク・ロイド・ライトによる新館(ライト館)の設計が開始。ライトは来日し、調度品や建材にまで細かく注文を出していった。しかし先進的な設計とこだわりは予算を圧迫、経営陣と衝突し完成前に現場を離れた。建設は弟子に引き継がれ、1923年7月に完成。同年9月1日、落成記念披露宴の準備の最中、関東大震災が発生。周囲の建物は倒壊したが、堅牢な設計のライト館はほぼ無傷。弟子からの手紙で知ったライトは、とても喜んだという。